

平成28年度「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成先選考結果のご報告

第二回目となります「重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成」につきまして、助成先が決定いたしましたので、ご報告いたします。

助成先団体及び対象となる事業（50音順）

助成先	申請事業名	助成金額
特定非営利活動法人 OnPal	重い病気で入院するこどもを対象とした 音楽授業等の実施と新たなプログラムの創作	¥600,000
一般社団法人 Kukuru	在宅療育を受ける子どもへの 学習指導員派遣に関するトライアル事業	¥2,000,000
一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト	重い病気を抱えるこどものための、 ダイバーシティなまなびのプログラムと環境の 開発事業	¥1,774,000
駿府博物館 / 公益財団法人静岡新聞・静岡 放送文化福祉事業団	駿府博物館・静岡文化芸術大学・静岡県立こども 病院三者連携 「ブリリアント・スマイル・プロジェクト」	¥811,500
特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス	重い病気を抱える子どもたちの 遊ぶ機会、学ぶ機会を届ける ボランティアスタッフ育成事業	¥1,060,000
特定非営利活動法人 ポケットサポート	自宅療養中の病弱児と学習支援者を 双方向Webで結ぶ学習支援事業	¥1,500,000
特定非営利活動法人 み・らいず	動ける医療的ケア児が学ぶ機会をつくるための 保護者交流会セミナーと支援者研修会	¥1,120,000
特定非営利活動法人ラ・ファミ リエ	入院中及び復学支援のための支援者育成事業	¥1,789,000

計 10,654,500円

今回の助成について

募集期間:平成28年7月1日～平成28年3月31日

助成金総額:10,000千円以内

応募数:23件

採択事業数:8件(計 10,654,500円)

助成対象となる活動期間:平成29年1月1日～平成29年12月31日

選考委員会:助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ4名の選考委員(当財団理事1名と社外有識者3名)で組織する選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長からのコメント

本助成は、重い病気により、学習環境に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びに向かい、取り組む手助けとなる事業を対象としたもので、今回が2年目の実施となります。

本助成は、これから広がっていく領域であり、担い手も多くないと想定していました。実際、応募団体は23件と他助成に比べ少なめでしたが、昨年度に引き続き応募された団体を含め、第1回より応募数を増やすことができました。選考委員会にて、募集趣旨に即して厳正に審査を行い、8件を採択しました。

今回の審査では、活動団体と共に育てていく領域であること、地域のニーズを表出していくことも重要と意識し、以下を重視しました。

- モデル性
モデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか
- 地域との連携
病院や学校などとの連携により、活動の実効性が高いか
- 社会的波及効果
活動の社会的な周知理解が図りやすいか

今後は、昨年度の助成団体も含めての交流会や現場の視察などを通じて、情報共有をし、学びあい、連携を促しながら、共通の課題に対して解決の糸口を提示できるようにしていきたいと思えます。

今回採択された助成団体の皆様には、本テーマで先行して活動されている団体として、地域での実績作りを期待しています。その活動がモデルとなり、よい活動が普及していく一助になれば幸いです。

公益財団法人ベネッセこども基金
理事・選考委員長
耳塚寛明

【団体名】

特定非営利活動法人 OnPal

【URL】

<http://onpal.org/>

【申請事業名】

重い病気で入院するこどもを対象とした音楽授業等の実施と新たなプログラムの創作

【メッセージ】

長期入院するこどものへの学校教育の継続を目的に設置されている「院内学級」は、学校から派遣された専任の教員が学年の違うこどもを対象にすべての科目の授業を行っており、教員への負担が大きく、こども達にとっても学習意欲を高めることが難しい状況に置かれています。この様な環境下で、こども達はコミュニケーションの機会も少なく、学習の遅れとともに、心と感性の成長も阻害されやすくなります。

OnPalでは、この支援を目的としてプロの音楽家による音楽授業やコンサートなど、楽しみながら音楽を学ぶ機会を継続的に提供しています。

クイズで楽器のことを知る、演奏を聴く、楽器を触る、音を出すというような体験型授業やコンサート行っており、手作りの楽器を使って音の出る仕組みなどを教えることもあります。こども達が病気のつらさを忘れてしばし音楽に没頭する姿を見るのが私たちの喜びあり、心豊かな人間として成長するための一助になればと考えています。

OnPalでは、病気のこども達の意欲や関心を高めるために試行錯誤を続けていますが、この度の助成金を活用し、協力団体の元気アートプロジェクトや他の分野の専門家の協力もいただきながら、新しいプログラムの創作に精力的に取り組みたいと考えています。

また、九州大学病院、福岡市立こども病院に続く3番目の病院に活動範囲を広げたいと考えています。

公益財団法人ベネッセこども基金とご支援いただく皆様に心より感謝申し上げます。

【団体名】

一般社団法人 Kukurū

【URL】

<http://www.kukuruokinawa.com/>

【申請事業名】

在宅療育を受ける子どもへの学習指導員派遣に関するトライアル事業

【メッセージ】

この度は採択いただきありがとうございます。

当法人では、医療的ケアが必要な重い障がいのある子どもがいるご家庭への訪問看護・訪問介護を行っております。

自宅での療養生活をおくっており、保育園や学校に通えない子どもたちは、学習の機会が極めて少なく、支援の制度も充分とは言えない現状があります。

本助成を活用し、在宅療養をしている子どもたちに、その障がいの程度に合わせた学習と自立活動の提案・指導を、試験的に実施したいと考えております。また、セミナーの開催を通じ、在宅療養をする子どものコミュニケーション支援の必要性の啓発も行います。

すべての子どもたちに、教育を受ける権利があります。重い障がいのある子どもでも、コミュニケーションが取れるようになり、社会との接点を持てるよう、その環境が整備されていく一助となればと思っております。

【団体名】

一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト

【URL】

<http://www.childrenshospice.jp/>

【申請事業名】

重い病気を抱えるこどものための、ダイバーシティなまなびのプログラムと環境の開発事業

【メッセージ】

この春オープンした日本初のコミュニティ型のこどもホスピス「TSURUMIこどもホスピス（TCH）」は、命を脅かす病気を抱える子どもたちとその家族にとっての第2の我が家です。病気の子どもを地域で支えるため、広い意味での「まなび」を提供できるよう、訪問活動の環境づくりとTCHにおける多様なまなびのゾーン活動を具体的に開発・準備する活動に取り組みます。

私たちの活動を通して、どのような状況にあっても子どもが子どもらしく生きることの素晴らしさや子どもの可能性を拓くための可能性を地域の方々とともに探求していきます。

【団体名】

駿府博物館／公益財団法人 静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団

【URL】

<http://www.sbs-bunkafukushi.com/>

【申請事業名】

駿府博物館・静岡文化芸術大学・静岡県立こども病院三者連携
「ブリリアント・スマイル・プロジェクト」

【メッセージ】

2016年7月から、当館は静岡文化芸術大学と静岡県立こども病院と連携し、入院する子どもたちを対象にアートプログラムを提供し、「創造の場」「表現の場」「発表の場」「コミュニケーションの場」の機会を生み出す活動をスタートさせました。小児がんや重い病気の治療を受ける子どもたちは、大きなストレスを抱え生活しています。特に入院患者は様々な制約が伴い、保護者・医師・看護師らとしか接することができず、自由な遊びや学びの幅も限られています。

当プロジェクトのミッションは「こども病院に入院する子どもたちに創作する機会を提供し、創作する楽しさや生きる喜びを育み、彼らを“とびっきりの笑顔“（ブリリアント・スマイル）にする」ことです。制限がある院内の生活を少しでも楽しくするために、一人でも多くの子どもたちに創造活動に参加してもらい、辛い治療を積極的に受けるきっかけにしてもらうことを目標に掲げています。また、大学と連携することで、病院で体験プログラムを提供できる人材を育成する効果も期待できます。

最後になりましたが、公益財団法人ベネッセこども基金とご支援いただく皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも当プロジェクトへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます

【団体名】

特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス

【URL】

<http://www.kemohouse.jp/>

【申請事業名】

重い病気を抱える子どもたちの遊ぶ機会、学ぶ機会を届けるボランティアスタッフ育成事業

【メッセージ】

この度は、本事業についてのご支援を賜り誠にありがとうございます。

子ども特に乳児、幼児、児童にとって遊びとは、発達を促すものであり、学びの場にもなります。遊びを通して、他者と交流し仲間との関係性を育み、そこから得られる達成感や自己肯定感は、社会に出ていくために必要な自信にもつながります。

しかし、重い病気を抱える子どもたちは、病状や障がいの程度や環境などの要因から、遊びや学びの機会が十分に提供されていないのが現状です。

今回の助成金で私たちは、子どもに合わせた遊びの計画を立て、実施できるボランティアスタッフを育成し、「楽しい学び」を届ける事業に発展させていきたいと考えています。

【団体名】

特定非営利活動法人 ポケットサポート

【URL】

<http://pokesapo.wixsite.com/pokesapo>

【申請事業名】

自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向WEBで結ぶ学習支援事業

【メッセージ】

昨年に引き続き、「自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向WEBで結ぶ学習支援事業」に採択いただきありがとうございます。

今年度、ポケットサポートではベネッセ子ども基金様からいただいた助成により、ICT支援の基盤を整えることができました。病院から遠方に住んでいる自宅療養中の児や、院内学級のない病院へ入院している児など、小学生から高校生まで述べ6名の子どもに対し、学習支援チームを組み、テレビ電話を利用した双方向WEB支援を行いました。

この事業に賛同していただいた、医療職の方々や学校の先生方からも期待を寄せられており、我々の学習支援の強みとなる事業への可能性も得ることができました。また、12月からは岡山大学病院と連携しクリーンルームにおいて面会の困難な小児がんの子どもと結ぶプロジェクトも行う予定となっています。

次年度は1年間培ったノウハウをもとに、さらに多くの子どもたちへの支援と、学習支援事業の拡大に努めたいと考えております。

【団体名】

特定非営利活動法人 み・らいず

【URL】

<http://me-rise.com/>

【申請事業名】

動ける医療的ケア児が学ぶ機会をつくるための保護者交流会セミナーと支援者研修会

【メッセージ】

このたびはご支援頂き、ありがとうございます。

医療の発展で今までは助からなかった超未熟児や先天性の病気をもった子どもたちが助かるようになりました。しかし、人工呼吸器や痰吸引・経管栄養などの医療的ケアが常時必要な状態の子どもは少なくありません。こういった子ども達はNICUが満床のため、医療的ケアを必要とした状態で、自宅に戻ることが増えています。そして、成長していく過程で、医療的ケアが必要でも歩くことや走ることができるようになる子どもがいます。しかし、「動ける医療的ケア児」は想定外とされ、現状の教育や福祉サービスなどの支援の狭間に落ちてしまっています。そのため、必要な支援を十分にうけることができていません。

子どもが子どもらしく成長するために、親が親として悩みながらも子育てを楽しむために、必要な経験をするきっかけをこの助成を受けて作っていきます。

その中で、この課題を少しでも多くの人に知ってもらい、一緒に支援に取り組む仲間を増やしていきたいと考えています。

【団体名】

特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ

【URL】

<http://www.npo-lafamille.com/>

【申請事業名】

入院中及び復学支援のための支援者育成事業

【メッセージ】

私たち特定非営利活動法人ラ・ファミリエは、平成14年7月に設立いたしました。

難病の子どもとその家族の滞在施設を運営しております。

平成27年度より愛媛県・松山市より委託を受け、ラ・ファミリエジョブサロンにて小児慢性特定疾病児童等自立支援事業を行っております。その中で、学習についての相談のニーズがあり、学習支援を行ってきた実績があります。

愛媛県内では院内学級のある病院が4病院しかなく、南予に1病院のみ、東予にはない。内訳とは小学生対象が4病院、中学生対象は2病院のみです。

長期療養のため、退院後、復学の為に自宅で療養中だったり、復学したものの学習についていけず不登校になり、親御さんと共に当団体に相談に来られる子どもも少なくありません。実際に文部科学省の統計では不登校児童生徒の約2割が病気による欠席に起因するとされている。さらに、愛媛県の地理的環境及び公教育の現状から遠隔地に関しては、病気の子どものニーズがあってもなかなか応えることのできないのが現状です。

本来であれば、公教育による学習保障が必要であります。公教育の整備を待つだけでなく、個別の教育的ニーズに応じた支援を県内で行えるよう、学習指導や病気療養児の心理・生理に関する専門性のあるスタッフや教育支援者を増やす必要があります。そのためには、スタッフ養成の必要があると思っております。

このような機会をいただきました公益財団法人ベネッセこども基金とご支援いただく皆様に心より感謝申し上げます。